

## 専大校友を訪ねて

「自立都市」を目指す 海老名市長 内野優さん(昭53法)



「自然と共生しながら人間らしく暮らし、経済面においても自立の出来る都市を目指します。海老名市はそんな可能性を秘めた街です」とこやかに語る。市職員、市議4期を務め、昨年11月の海老名市長選に立候補2回目で初当選を遂げた。

前回4年前の市長選で敗れた後、公職なしの一市民の目で海老名のまちを見つめ、市民との対話を心がけてきた。

「市議からすんなり市長になっていたのでは得られない、貴重な体験でした。今の私の原点となっています」

好きな言葉は「思いやり」。市政は市民のためにあるという基本を新たにし、選挙戦で公約に掲げたマニフェスト(政策綱領)34項目の実現とともに、同市のますますの進化へ力を尽くす。

専大法学部では、刑法コースに学んだ。厚木市のスーパーでアルバイトをしていた時、エネルギッシュな働きぶりが認められ、学生アルバイトとしては初の「店長賞」を受賞したという逸話の持ち主。

「就職活動での適性検査では、営業が二重マル。公務員よりも向いているとの評価でした」

フットワークとともに備わった人あたりの良さ。学友にも恵まれ、「正直言うと、友人に会うことが目的で大学に通っていました」と笑うが、「目標を持ち、将来何をやりたいか見極めようと、懸命に過ごした4年間」と振り返る。

警察官志望だったが、家族の勧めもあって、生まれ育った海老名市の職員に。在職中、自治労の役員を務めたことが転機となり、市政を動かす道を歩むこととなった。

人口12万2千の同市は、首都圏のベッドタウンとして働き盛りのサラリーマン層が多く居住する「若いまち」だ。

「安全で快適なまちづくりを進め、住民が住み続けたいと願う、魅力ある海老名市にしていくことが急務です。任期4年の1年、1年が勝負です」

【ニュース専修4月号11面】